

# インプラントの長期的な維持安定の実現 ～科学的根拠を基にした考察とサポートにおける取捨選択～ Realization of the long-term maintenance stability in the implant ～Evidence-based consideration and choice in the support～



Aya Kurokawa  
黒川 綾  
株式会社プラスアルファ

インプラントが臨床応用されて半世紀程経過し、インプラントメンテナンスという言葉も出現しました。その方法、ノウハウは多くの方が提唱し、現在インプラントの生存率は10年で90%とも言われています。(荒川光：口腔インプラントの生存に関する疫学調査：オッセオインテグレーションの獲得と維持からみた評価；日口腔インプラント誌 2002, 15 (1) 66-74) ただ、一方ではインプラント周囲炎も問題となり、その対応として感染源の除去という理解では至ってシンプルですが、インプラントの構造と周囲の組織の関係、更に再生治療の併用と審美領域へ踏み込んだために年々複雑化するインプラントに対応する私たち歯科衛生士は日々学びと情報収集に必死となっています。

また、患者側の意識を見てみると、着脱の煩わしさのないインプラントは治療後の患者満足度も93%と非常に高く、(森永太：患者さん側からみたインプラント治療の評価—アンケート調査より—補綴臨床 28 (3) 281-285, 1995.) ただそれが、定期的な来院の機会を逃す要因と考えられます。一般生活者の口腔環境への意識は高まりましたが、未だ半数以上が定期的な歯科受診のない状況であり(2022年公益社団法人日本歯科医師会)、天然歯の様に痛みを感じる事も少なく、満足度も高いインプラント埋入後の定期的な来院自体をどう継続させるのかも課題となっています。私自身の臨床では、患者自らの意思で来院を頂いており、一番長いケースで25年の経過を拝見させて頂いています。その経験を基に、インプラントを長期的に維持安定させるためには何を基準としてチェックしていくのか、取捨選択を実症例と共に

- 1、定期来院を意識付ける時期と方法
- 2、来院時に見るポイントとサポートの取捨選択
- 3、実際の方法

以上の流れで共有できたら幸いです。

## 【略歴】

- 1998年 横浜歯科医療専門学校卒業
- 2008年 一般歯科医院にて修業の後 フリーランス転向
- 2010年 スタディグループ+α 設立
- 2013年 (株) プラスアルファ 設立
- 2019年 東北大学大学院歯学研究科 入学
- 2023年 修士課程終了  
歯学修士(口腔科学) 取得
- 2023年 一般社団法人 歯科衛生士臨床技能研修会 設立

## 【所属学会】

- 日本歯周病学会
- 日本歯科衛生教育学会